

高校生の「ゆとり」経験について（1）
 ーいつ、どんな場面で「ゆとり」を感じ、その時の気分はどうかー
 西野 仁（東海大学）

I、はじめに

1992年に、ゆとりある教育をめざして導入された学校週5日制は、1995年4月より、月2回へと拡大された。この教育制度の改革によって、児童・生徒の週間リズムは、従来の「6 and 1（6日登校1日休み）」から、「5 and 2（5日登校2日休み）」との併用へと大転換することになった。このリズムの変化は、果たして高校生の日常生活にどのような変化をもたらしているのでしょうか。とくに、高校生の一週間の生活行動やゆとり感、週5日制の導入でどう変わるのか。これらを明らかにすることを目的に、1996年1月から6月にかけて、首都圏の高校生を対象に、一週間にわたるESM（経験標本抽出法）調査を実施した。この調査で445名の高校生2年生から、総計18,641件の高校生の日常生活経験のサンプルが収集できた。これらのデータを使って、高校生の「ゆとり」経験について明らかにしたい。そのためにもまず、日常経験における「ゆとり」経験の記述から分析を開始することとした。

II、研究の目的と方法

1、研究の目的

本研究は、高校生の一週間の日常生活において、どのような場面で「ゆとり」を感じているかを明らかにすることにある。具体的にそれは、生徒が「いつ」「なにを」「どこで」「だれと」している時にどの程度の「ゆとり」を感じているのか、また、「ゆとり」を感じている時の「気分」はどうかについて、記述することである。

2、研究の方法

本研究では、Experience Sampling Method（ESM）を用いて、データを収集した。Experience Sampling Methodは、われわれの就寝から起床までを除く「日常生活経験」を母集団と考え、そこから「経験の標本」をランダムに取り出し、そのサンプルデータから、人の日常経験のパターンやスタイルを推測しようとする調査方法である。（ESMの方法論的特徴と有効性については、西野らの発表（1998）を参考にされたい。）

調査は、首都圏の高等学校から12校を選出した。12校の内半数の6校は、土日連休の週に、残りの6校は日曜のみ休日の週に調査を実施することとし、各校の2年生の男女計35名程度の調査協力者を、計455名選出した。（調査の準備段階では2年生であったが、調査実施時に3年生に進級したケースが1校あった。）

調査は、1996年1月から6月に行った。ポケットベルの呼び出しは、あらかじめ決められた時間帯毎に無作為に時刻を抽出し自動ダイヤルするコンピュータプログラムを開発し、それを用い午前7:00から午後10:59までの間に、2時間毎にランダムに1回、一日計8回対象者を呼び出すことを、木曜日から翌週水曜日までの一週間連続して行った。ポケットベルの受信可能地域は、NTTが広域エリアと呼ぶ、東京、神奈川、千葉、埼玉をほぼカバーする地域である。

回収したデータは、あらかじめ設定した基準に照らしてスクリーニングを行い、455人

のESM調査参加者から、124人のデータを除外し、残った331人(72,7%)の12,064(64,7%)場面での経験の標本を分析の対象とした。331人は、男子126名(38,1%)、女子205名(61,9%)であり、また、やや学業成績が上位の者が多い傾向にあった。

調査票回収後、活動内容については、NHKの生活時間調査と余暇開発センターの余暇活動調査の分類を参考に作成したコード表に従ってコード化した。コーダー間のずれを防ぐため、複数のコーダーによるチェックを行った。また、7段階尺度のデータはそのまま数値を入力した。「ムードスコア mood score」は、ESFの7段階のリッカート尺度のムード質問項目で「安定」「わくわく」「自由」などのいわゆるポジティブ方向の「まさにそのとおり」と答えた回答を7点、「いらいら」「たいくつ」「そくばく」などのネガティブ方向の「まさにそのとおり」と答えた回答を1点とした。

ゆとり感の指標とした「ゆとり気分スコア yutori feeling score」は、ESF中の7段階のリッカート尺度の質問項目「あなたは、どの程度ゆとりを感じていましたか？」に「まさにそう感じていた」との回答を7点、逆に「全くそうは感じていなかった」を一点とした。ムードスコアなどの計算と分析は、統計プログラムSASを用いた。

III、結果および考察

1、回答記入の状況

前述のように本ESM調査では、1日8回連続7日間のポケットベルの呼び出しを行った。全ての呼び出しが正常に行われたと仮定すると、ESFへの回答記入回数は一人につき最大56回、331人で計18,536となるが、実際には12,064サンプルの経験が報告され、記入率は65,1%だった。また、ポケットベルの呼び出し後、5分以内に51,8%が、30分以内に75,91%が、一時間以内に89,4%の回答が記入されていた。

回答記入ができなかった理由について、理由の半数の50,3%は「ポケットベルは鳴ったが、記入できる状況ではなかった」とし、具体的に「混雑したバスや電車の中にいた(16,2%)」、「授業中だった(15,1%)」、「入浴あるいはシャワーを浴びていた(12,8%)」、「スポーツをしていた(11,9%)」が主な状況であり、「面倒だった」は7,4%であった。

2、高校生のゆとり感

1)、ゆとり感の日内変動と週間変動

高校生のゆとり感を一日8回、一週間連続して調査した結果のゆとり気分スコアの平均は、図1のようであった。^{註1} 土、日曜のいわゆる週末と、それ以外の平日とでは明らかにパターンが異なる。休日は一日の変化の範囲が、平日よりも小さい。平日は、ゆとり感の低い朝からスタートし、登校時に最も低くなり、しだいにゆとり感が高まりだし、放課後から夜にかけてそのカーブは急上昇し、就寝前に最も高くなる。特に、金曜日の夜は、予想どおり、一週間中で、最もゆとりを感じていることが確認された。

2)、活動とゆとり感

表1で明らかのように高校生のゆとり気分スコアが最も高かった、つまりゆとり感を感じていた活動は、テレビやラジオを視聴している時やスポーツをしている時に代表される「レジャー活動時」と、うたた寝や食事をしている生活維持活動時である。逆に、アルバイト時や授業や塾での学習活動時は、ゆとり感が低い。最も低かった活動は、週末の塾・予備校であった。多くの活動において、週末の方がゆとり感が高い傾向にあった。

3) 、場所とゆとり感

活動場所別のゆとり気分スコアは表2のようであった。高校生が、日常の生活場面でゆとり感を感じる場所は、他人の家(親類や友人宅)とレジャー・運動・レクリエーション施設、そして自宅であった。とくに、親類やカラオケボックス・ゲームセンター・遊園地などは、代表的な息抜きの場所であるようだ。自宅では、浴室がゆとりを感ずる最適な場所である。逆にゆとり感が低かった場所は、アルバイト先、学校・塾などであった。

4) 、同伴者とゆとり感

高校生は誰といる時にゆとりを感じているのであろうか。同伴者別のゆとり気分スコアは表3のようであった。最もゆとりを感じるのは、「家族といる時」である。次いで「一人である時」であり、「友人といる時」は、低かった。

5) 、ゆとり感の高い時と低い時の気分の違い

ゆとり感の高い時と低い時とでは、高校生の気分はどのように異なるのであろうか。図2で明らかなように、ゆとり感が高い時は、「安定」「自由」「リラックス」「やすらぎ」などの気分が強く、いわゆるポジティブな気分であった。逆にゆとり感の低い時は、「たいくつ」「いやな」「そくばく」「ふまんぞく」「おもくるしい」などのネガティブな気分であった。

IV、まとめ

データの分析結果から、とくに次のような点は注目されよう。

- 1、ゆとり感には、週間リズムが存在するとともに、日変動のパターンが存在する。そのパターンは、平日と休日とでは明らかに異なる。
- 2、ゆとりを感じやすい活動、場所、同伴者は特定できる。
- 3、ゆとりを感じている時は、ポジティブなムードが目立ち、感じていない時は、ネガティブなムードが目立つ。

本研究は、高校生の「ゆとり」経験を明らかにするために、その第一段階として、それらを大まかに記述したものである。今後は、高校生の日常生活経験における「ゆとり」をさまざまな方向から分析していく予定である。たとえば、性差やクラブ活動の参加の有無、通学形態による違い、卒業後の進路希望との関係、日ごろ感じているタイムプレッシャーの強さやレジャー享受能力との関係などの他、「ゆとり」感を構成する心的な要素の特定などについて、できるだけ早く続報として報告したい。

注1：ゆとり感の週間パターンについては、西野らがレジャー・レクリエーション研究第38号(1998)で、ESMの時系列分析の可能性を例示するために用いた図を再掲した。

参考文献

Nishino, H. (1997) Will the two-day weekend bring more leisure (yutori) for Japanese adolescents? Thesis submitted for the degree of Doctor of Philosophy in Leisure Studies in the graduate college of the university of illinois.

西野、知念、ESMを用いた日常生活におけるレジャー行動研究の試み、レジャー・レクリエーション研究第38号：1—15、1998

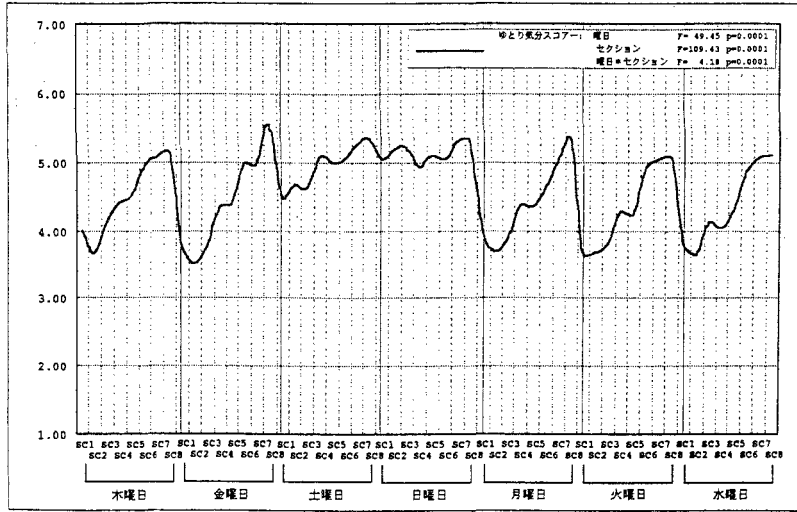


図1 高校生のゆとり気分スコアの日内変動と週間変動

西野、知念、レジャー・レクリエーション研究 第38号 p. 13, 1997 より再掲

表1 高校生の活動別ゆとり気分スコア

活動	平日			週末			
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
学習活動	3563	3.54	1.66	526	3.65	1.69	
アルバイト	79	2.96	1.75	57	3.68	1.96	*
生活維持活動	1414	4.93	1.79	708	5.38	1.58	***
社会的活動	1717	4.53	1.72	564	4.79	1.61	*
屋内レジャー活動	1793	5.54	1.39	1093	5.67	1.67	*
屋外レジャー活動	149	5.50	1.38	135	5.39	1.44	
その他	170	4.33	1.61	96	4.97	1.31	
合計	8885	4.41	1.83	3179	5.05	1.67	***

note: * p<.05 *** p<.001

表2 高校生の活動場所別ゆとり気分スコア

活動場所	平日			週末			
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
学校・塾など	4329	3.89	1.75	421	3.90	1.72	
自宅	3124	5.15	1.69	2062	5.37	1.52	***
他人の家	59	5.54	1.55	82	5.60	1.39	
公共の場	1021	4.14	1.75	315	4.55	1.66	***
レジャー・運動施設	256	5.33	1.56	220	5.21	1.61	
アルバイト先	80	2.98	1.74	57	3.61	1.91	*
その他	31	4.33	1.61	9	4.97	1.31	
合計	8885	4.41	1.83	3179	5.05	1.67	***

note: * p<.05 *** p<.001

表3 高校生の同伴者別ゆとり気分スコア

同伴者	平日			週末			
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
ひとり	2247	4.78	1.81	1377	5.18	1.61	***
家族	1460	5.21	1.64	929	5.40	1.44	**
友人	4817	4.03	1.78	778	4.55	1.79	***
その他	361	3.76	1.77	95	3.60	1.89	
合計	8885	4.41	1.83	3179	5.05	1.67	***

note: ** p<.01 *** p<.001

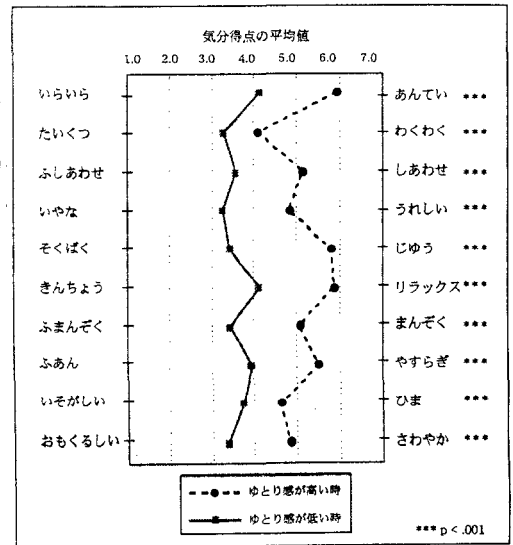


図2 ゆとり感の高い時と低い時の気分